

地域保健

9
2022

●特集

誰も取り残さない災害支援 と保健師

—マイノリティーへの健康支援をどうするか



読者の皆さまへ

『地域保健』休刊のお知らせ

『地域保健』は2023年3月号をもって、いったん「休刊」とすることになりました。

1970年の創刊以来、半世紀以上にわたり全国の保健師をはじめとする公衆衛生関係者にご愛読いただきましたが、速報性に優れたネット動画や双方向性機能を持つSNSが普及する時代となり、印刷媒体の限界も見えてきたのではないかとの判断で、ここで一度休刊とすることが決まりました。長きにわたりご協力、ご支援くださいました皆さまに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

来春以降はネット空間に軸足を移し、新しい展開を図っていきます。具体的な内容については、ネット上で順次ご紹介していきます。ネット空間での「集い」やネットで発信した情報から、逆に新しい印刷媒体を生み出すなど、さまざまなチャレンジをしていく所存です。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

地域保健編集長

本年7月号以降の定期購読料について

本年7月号以降の定期購読をお申し込みの場合、購読料は下記ようになります。前納・後納・個人の区分は廃止します。

2022年7月号～2023年3月号（5冊）	6,781円（税込、送料弊社負担）
2022年9月号～2023年3月号（4冊）	5,425円（税込、送料弊社負担）
2022年11月号～2023年3月号（3冊）	4,068円（税込、送料弊社負担）
2023年1月号～2023年3月号（2冊）	2,712円（税込、送料弊社負担）

※2023年3月号のみの定期購読というのではなく、単品扱いとなります

※単品の価格については従来どおり（1,507円〈税込〉＋送料154円）

お申し込み

電話：03-5977-0300

ウェブ：<http://www.tkhs.co.jp>



イラストレーター・
スズキトモコ

なかなか旅に行きづらい
昨日ですが、遠くへ
思いを馳せるような、
そんな気持ちになれば
うれしいです。

<http://www.tomo-com.com>

【特集】

6

誰も取り残さない災害支援 と保健師 —マイノリティーへの健康支援をどうするか

8 【座談会】 災害時要配慮者支援で保健師に求められること

(出席者) 奥田博子さん (国立保健医療科学院) =司会
森永裕美子さん (岡山県立大学)

井上郁子さん (茅ヶ崎市保健所)
原田 恵さん (倉敷市保健所)

24 日頃から地区内外の福祉職者との連携を 北村弥生 (長野保健医療大学)

28 潜在的な要支援者への支援の実態調査から 日詰正文 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

32 身体障害、知的障害のある人と災害時の支援 北村弥生

38 聴覚障害のある人と災害時の支援 宮澤典子 (一般社団法人全国手話通訳問題研究会)

42 精神障害のある人と災害時の支援 山田悠平 (一般社団法人精神障害当事者会ポルケ)

46 発達に偏りのある子どもと家族への災害時支援 前川あさ美 (東京女子大学)

2 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! ▶ 三浦七海さん (南三陸町 保健福祉課健康増進係)

50 Close Up ▶ ベビー防災® 「命の重さ」を伝えたい 押栗泰代 (ナーシングクリエイティブ株式会社)

70 レポート ▶ 令和4年度 保健師中央会議

90 情報BOX

78 ピープル ▶ なるかわしんごさん (絵本作家)

96 次号予告/奥付

連載

54 なな先生のことばの発達教室《第3回》/寺田奈々

76 ESSAY 国際保健《第51回》/松田正己

58 東京保健師ものがたり《第9回》/和泉慶子

82 保健師のための閑話ケア《第102回》/藤本裕明

74 オンライン市役所だより《第9回》
/保健師とつながろう課

86 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第87回》/中臣昌広



職場近くの散策路。後ろに見えるのは震災当時町の復興を祈願してイスラエルから寄贈されたモニュメント

みづら・ななみ

三浦七海さん

● 南三陸町保健福祉課健康増進係

どんな些細なことでも
頼ってもらえるような保健師になりたい



誰も取り残さない 災害支援と保健師

マイノリティーへの健康支援をどうするか

災害対策基本法の改正により、個別避難計画の作成が自治体の努力義務になり、「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」の改定により、福祉避難所へのアクセスの改善が期待されるなど、災害時要配慮者への支援が進んでいる。そうした中で、要配慮者が福祉との結びつきが強い場合、保健師の支援は関係者につながるだけで終わってしまうことも多いという。しかし福祉の部署や関係者は健康二次被害について詳しいわけではなく、引き続き保健の面からの関わりは重要である。

今月号は7月号に続いて災害保健をテーマとし、災害時要配慮者に焦点を当てる。座談会では災害時要配慮者への支援で保健師に何が求められるのかを話し合う。各執筆項目では、災害時要配慮者に求められる支援の特性を整理、保健師は何かができるのかを探る。

P 8

【座談会】

災害時要配慮者支援で保健師に求められること

(出席者)

- ◎奥田博子さん (国立保健医療科学院) =司会
- ◎森永裕美子さん (岡山県立大学)
- ◎井上郁子さん (茅ヶ崎市保健所)
- ◎原田 恵さん (倉敷市保健所)



▲奥田博子さん



▲森永裕美子さん



▲井上郁子さん



▲原田 恵さん

P24

日頃から地区内外の福祉職者との連携を

◎北村弥生 (長野保健医療大学)

P28

潜在的な要支援者への支援の実態調査から

◎日詰正文 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

P32

身体障害、知的障害のある人と災害時の支援

◎北村弥生

P38

聴覚障害のある人と災害時の支援

◎宮澤典子 (一般社団法人全国手話通訳問題研究会)

P42

精神障害のある人たちと災害時の支援

◎山田悠平 (一般社団法人精神障害当事者会ポルケ)

P46

発達に偏りのある子どもと家族への災害時支援

◎前川あさ美 (東京女子大学)



なるかわしんごさん

●絵本作家

「おかしいな」と思う違和感を大事にして誰かに「助けて」と言える社会であってほしい

セリフのない絵本を全国の親子に届けている絵本作家・なるかわしんごさん。創作の傍ら、子育て支援拠点や子育てひろば、保育園などでも親子を対象としたワークショップを通して児童虐待を予防する活動をしている。赤ちゃん訪問の際、なるかわさんの絵本を配布する自治体も。なるかわさんが絵本作家になるうと思つた背景、そして、いまの社会への願いを聞いた。

●取材・文……………太田美由紀（ライター）

自分が本当にやりたいこと
それが絵本作家だった

なるかわさんが社会に対して違和感を持つたのは10代の頃だった。大人たちが口にする「そんなことでは社会に通用しない」という言葉に、「そんな社会なら入りたくない」とずっと思っていた。「僕が10代の頃、自殺者が3万人と言われていました。『自ら死ぬ選択をしなきゃいけない社会って終わってる』と感じていま

した。未来に希望を持たなければ死にたくなるのも分かる、とも思っていた」

小学校の頃から絵を描くことが好きだった。成績表も、図工と体育はいつも二重丸。中学でも評価はずつと5だ。しかし、大学では経済や経営を学んだ。大学のキャリア説明会で、大手企業に就職したOBの就職活動のお手本のような話を聞いているとき、疑問が湧いて、手を上げた。「その会社に入ったから幸せになるということではありませんよね」

その問いかけにOBは答えてくれず、キャリアセンターの人にひどく怒られ、その後一切の説明会に出入り禁止になった。

「自分が持つた違和感や疑問を表明しただけなのに、それを封殺しようとする大人の動きがとても嫌でした。そのOBは後日、会社を辞めたと連絡をくれました。耐えられなかったと。先輩たちも成功者として話をさせられていたんです。そんな、魂が置いていかれるようなシステムチックな社会に嫌気が差していました」

特集

コロナで増える休職・離職 保健師のメンタルヘルスをまもりたい

Zoom
座談会

コロナで辞める？ 辞めない？ -退職者を囲む約60人の大座談会

<出席者> (五十音順)

●退職 陣立良太さん (神奈川歯科大学短期大学部)

●退職 西田悠一郎さん (株式会社野遊びヘルスケア)

●現職 二宮博文さん (港区みなと保健所)

SNSの呼びかけで集まった傍聴参加の皆さん

本企画について

編集部が
twitterスペース
で取材を
受けました!

3,000人以上が
聞いた音源データを
YouTube で公開中



●開業保健師くらチャンネル
https://youtu.be/NIEZcyVcN_Q

●【インタビュー】メンタルヘルス支援経験から伝えたいこと
夏目 誠さん (精神科医)

●コロナ禍で戦う支援者の心理的支援：モラルの視点を踏まえて
太刀川弘和 (筑波大学) 氏原将奈 (淑徳大学)

●COVID-19対応に追われる保健所職員のメンタルヘルスについて
臼倉 瞳 (東北学院大学)

●【事例】埼玉県の取り組み 谷戸典子 (埼玉県人財政策局)

●【事例】東京都の取り組み 河西あかね (東京都多摩府中保健所)

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! 小池はるのさん (横浜市鶴見区福祉保健課)

ピープル 大島由起雄さん (特定非営利活動法人きずなメール・プロジェクト)

研究報告

- ・あらゆる人の“とも育て[®]”が、“マルチリ予防[®]”につながっていく!
—「マルチリ予防」Web サイト開設後の活用状況 榊原信子 (小田原短期大学)
- ・COVID-19 感染者が救われたと感じた言葉かけやサポート
—軽症者療養施設入所中の療養者への調査から 高田大樹 (兵庫県立加古川医療センター)

※変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地域保健
令和4年9月号

令和4年9月1日発行/隔月(奇数月)1回1日発行
発行人 菅 国典
制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22
株式会社 東京法規出版
振替 00160-1-371595

【購読の申し込み】

TEL 03-5977-0300
FAX 03-5977-0385
ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】

TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp

◎表紙・本文デザイン=新海妙子
◎印刷・製本=(株)上野印刷所
◎編集長=須賀健次
◎編集員=松岡康子

本誌に掲載された著作物の
複写・転載等の許諾権は、
株式会社東京法規出版が保
有しています。

バックナンバー紹介

2021年7月号

特集「生きづらさを抱える女性たちの支援をどうするか」

—ウィズコロナ・ポストコロナの地域の課題」

コロナで生じた地域への悪影響のうち、生きづらさを抱えている女性の問題にスポットを当て、保健師としてこの課題にどう向き合うべきかを考える。

2021年9月号

特集「貧困家庭の子どもへ必要な健康支援」

貧困家庭では健全な生活習慣を育むことが難しく、子どもの有病率は高いといわれるが、子どもへの支援は必須ではなく、自治体に任されている。この問題に保健師はどう向き合うか。

2021年11月号

特集「子どもの性と向き合う」

—包括的性教育とプレコンセプションケアを踏まえて」

包括的性教育やプレコンセプションケアの視点から、保健師が子どもの性とどのように向き合ったらよいかを考える。

座談会「保健活動におけるデータとエビデンス —EBPM、ICT、AIの時代に」

EBPM、ICT、AIの巨大な潮流の中で保健活動はどのように変わっていくのか。保健師業務におけるデータやエビデンスの扱いについて語り合う。

2022年1月号

新春座談会「コロナ禍における統括保健師の役割 —不安と混迷の時代に」

非常時と日常が混在する中で、自治体保健師の取りまとめ役である統括保健師が果たすべき役割は何か。混迷の時代における統括保健師の役割について考える。

特集「『高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施』の推進

—コロナ禍でいかに進めるか」

コロナ禍で対面交流事業が難しくなった。一方、自粛生活は高齢者の心身の機能を低下させる。コロナ禍における高齢者の健康づくりを保健事業と介護予防の一体的推進の立場から整理、自治体の好事例を紹介する。

2022年3月号

座談会「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムと市町村保健師の役割」

通称「にも包括」と呼ばれる同システムの構築において、市町村保健師に期待されるものは何か。先進的な市町村の保健師と専門家が意見交換。

鼎談「母子保健とコロナ禍」

コロナ禍における母子保健に焦点を当て、事業を進めるための工夫や乗り越えるべき課題、母や子の異変などについて語り合う。

2022年5月号

特集「医療的ケア児と家族への支援」

医療的ケア児とその親が地域生活を始めるとき、行政サービスにうまくつながるかどうかは、保健師の初期の丁寧な関わりが大きい。医療的ケア児とその家族の支援に関する保健師の役割について座談会や事例をもとに考える。

2022年7月号

座談会「災害時の保健活動を再考する

—保健師が力を発揮するために統括保健師は何をすべきか」

災害時に保健師が本来なすべきことを整理しつつ、それらを妨げる要因を探り、保健師が効果的・効率的に力を発揮するための方策を統括保健師の立場から考える。

特集「避難所の現状と課題

—保健師が知っておきたいこと」

国際的に見ればわが国の避難所対策はまだ課題がある。避難所の現状と課題という側面から、保健師が知っておきたいトピックを掲載する。

お申し込みは

(株)東京法規出版 地域保健編集部
FAX: 03-5977-0385

※バックナンバーの価格

(2009年3月号まで) 837円(税込) + 送料154円

(2009年4月号～2016年3月号まで)

942円(税込) + 送料154円

(2016年5月号から) 1,507円(税込) + 送料154円

『地域保健』定期購読のご案内

●本年7月号以降の年間定期購読料は、右記のようになります(税込)。前納・後納・個人の区分は廃止します。

※定期購読の送料は弊社が負担します

※単品の価格は従来どおりです

税込1,507円 + 送料154円

▶ 2022年7月号～2023年3月号(5冊) 6,781円

▶ 2022年9月号～2023年3月号(4冊) 5,425円

▶ 2022年11月号～2023年3月号(3冊) 4,068円

▶ 2023年1月号～2023年3月号(2冊) 2,712円

※2023年3月号のみの定期購読というのではなく、単品扱いとなります

お申し込み

電話 03-5977-0300

ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>